

講義名	E - ビジネス		
科目区分	学科専門 展開		
担当教員	宗平 順己		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b> 多くの企業のビジネスはインターネットの存在を前提としたものになっている。その形態は大きく企業同士の取引（BtoBという）および一般消費者向けのビジネス（BtoCという）に分類される。本講義ではまず、e-ビジネスの発展の経緯について理解した後に、初期段階のe-ビジネスの事例を学ぶ。次にe-ビジネスの基礎となるインターネットやクラウドについて学び、代表企業であるGoogleやAmazonについて学ぶ。一方、スマホの普及とともにe-ビジネスの形態も大きく変わってきている。講義の後半では世の中を変えつつあるデジタルトランスフォーメーションについてそれが社会にもたらすインパクトについて事例を交えて理解する。
--

<b>到達目標</b> e-ビジネスの概念が時代とともにどのように変遷してきたかを説明することができるようになる。 Amazonがe-ビジネスによって既存市場をどのように変革したかを説明できる。 e-ビジネスの新しい形態であるデジタルトランスフォーメーションについて事例とともに説明できるようになる。
---

<b>提出課題</b> 学期途中で2回のreportの提出を求めます。 2回とも提出しなければ単位認定はできません。
--

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> Ryukaポータルで個別にフィードバックコメントを返す他、授業中においても総括コメントを述べる。
--

<b>評価の基準</b> 中間レポート1 35%、中間レポート2 35%、出席30%。
--

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> ビジネスの現場で起きていることを元に授業を行うので、授業に出席することが必須です。 授業に出席しなければ試験の回答はできません。 中間レポート未提出では単位取得が難しくなるので、必ず提出すること。
---

<b>教科書</b> ・使用しない。
-----------------------

<b>プリント資料及び参考文献</b> 遠隔授業中は毎回 Ryukaポータルからダウンロードしてもらいます。 対面授業時には毎回配布に切り替える場合もあります。
--

<b>授業計画</b> 1. 企業システムとe-ビジネス 2. e-ビジネスの華やかな面を学ぶ前にその基礎にある企業情報システムの全体像を学びます 3. 伝統的なe-ビジネスの事例 その1 4. 中小企業の事例 東海パル工業、メアリー・チョコレートカムパニー 5. 伝統的なe-ビジネスの事例 その2 6. 大企業の事例 セブンイレブン、デル 7. e-ビジネスの基礎となるインターネット 8. インターネットの勃興 9. インターネットからクラウドへ 10. クラウドコンピューティングの概要 11. Google 12. What is Google? 13. Amazon 14. Barnes & Nobles VS Amazon 15. AmazonとAIS 16. E-Commerce 17. ECの発展経緯 18. ECシステムの特徴 19. ECの成熟度とアーキテクチャ 20. ECの次の課題 Personalization 21. e-ビジネスの要となるBigData 22. ビッグデータの基礎、データアナリスト、データサイエンティスト 23. デジタルトランスフォーメーション 24. デジタルトランスフォーメーションとは？ 25. Uber、Airbnb 26. ミレニアル世代 27. オムニチャネルからデジタルリテールへ 28. 小売業のデジタルトランスフォーメーション 29. 製造業のデジタルトランスフォーメーション その1 30. IoTの概要、IoTによって変わる産業構造 31. 製造業のデジタルトランスフォーメーション その2 32. Industry4.0 33. デジタルトランスフォーメーションを実現するサービスデザイン 34. デザイン思考とサービスデザイン 35. AI 36. これからのe-ビジネスのコア
---

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b> ア：PBL（課題解決型学習） イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベート エ：グループワーク オ：プレゼンテーション カ：実習、フィールドワーク
---

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 復習を行い、不明点はインターネットなどでまずは自ら学習すること（所要時間30分～1時間）。 そのうえでの質問は大いに歓迎する。 第15回のまとめの回では、各自から質問にも回答する形で14回の授業内容を振り返る。
---

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b> 受講者が多いため、授業中の質疑が難しいことから、Ryuka Portalを用いて質問に対応する。 TEDやYouTube教材を活用し、英語のテキストに日本語字幕をつけている。デモなどが見れる場合には、実際のWebサイトにアクセスし、より深い情報を紹介している。
--

<b>実務経験の有無及び活用</b> 実務経験あり 授業で使用するプリントは実務に基づく知見も踏まえて作成している。また、様々な事例を盛り込んで講義を行うことで、書籍やネット、TVから入手した情報に対して、学生は実社会での実情を理解することができる。
---

<b>備考</b> 対面授業ができない場合は、原則オンライン型授業にします。第2回のみ課題提出型になります。
---